

■斑点米カメムシ類対策は雑草防除で行います。

斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）対策は水田内の雑草防除と農道・畦畔の草刈りを組み合わせてカメムシがほ場に入らない環境づくりをします。

◎アカスジカスミカメの生態

- 成虫は体長4.6～6mm、背側中央部に橙赤色の太い縦条がある
- イネ科雑草の穎花内で卵越冬し、年3～4回発生する。
- イネ科雑草やホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草の穂に産卵し増殖する
- 主に7月下旬以降に発生した成・幼虫が加害し、斑点米を発生させる。



アカスジカスミカメ成虫

■水田内に雑草が残った場合は中・後期除草剤で徹底防除

中・後期剤には、使用時に湛水で散布する剤と、落水して散布する剤があります。使用前にラベルをよく読んで、使用方法をにそって散布しましょう。

剤系	薬剤名	使用量 希釈水量	本剤使用回数	使用時期 使用方法
ヒエ剤	クリンチャー1* ₀ 粒剤	1kg/10a	2回以内	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで湛水散布
		1.5kg/10a		移植25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで湛水散布
	クリンチャーEW	100ml/10a 25～100%	2回以内	移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日まで落水散布（展着剤加用）
	ヒエクリーン1* ₀ 粒剤	1kg/10a	1回	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日まで湛水散布、効果が遅効的のため早めの散布を
広葉剤	バサグラン粒剤	3kg/10a	1回	移植後15日～50日 但し、収穫60日前まで落水又は浅水状態で散布 ※スポット処理可
	バサグラン液剤	500～700ml/10a	2回以内	移植後15日～50日 但し、収穫50日前まで落水又は浅水状態で散布 ※スポット処理可
広葉混合剤	クリンチャーバスME液剤	1000ml/10a 70～100%	2回以内	移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで落水散布又は浅水状態で散布 ※スポット処理可
	ワイドアタックSC	100ml/10a 100%	2回以内	移植後25日（イネ6葉期以降）～ノビエ5葉期まで 但し、収穫30日前まで 落水又は浅水状態で散布
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	3kg/10a	1回	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで浅水状態で散布

※効果が遅効的な薬剤もありますので、ご使用前に営農センターにご確認ください。

※有効成分ごとの使用回数は農業ラベル等で確認ください。

■農道・畦畔の草刈りはこまめに行います。

農道、畦畔の草刈りは6月上旬から稲が出穂する10～15日前までに数回行います。

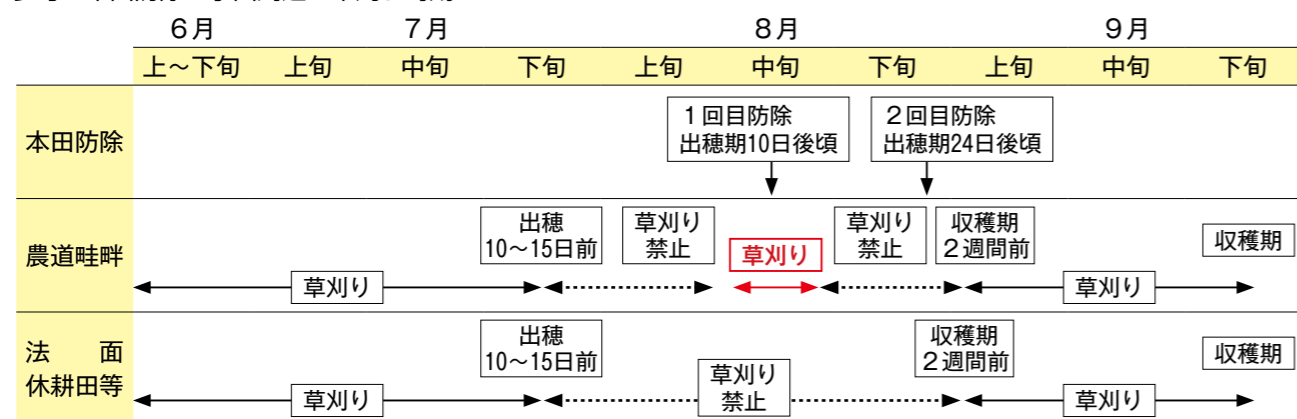
☆おぼこ一斉草刈りデーは7月20日～26日です☆

8月には出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布後に草刈りを行い、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努めます。

その後、草刈りをする場合は稲の収穫2週間前以降に行います。



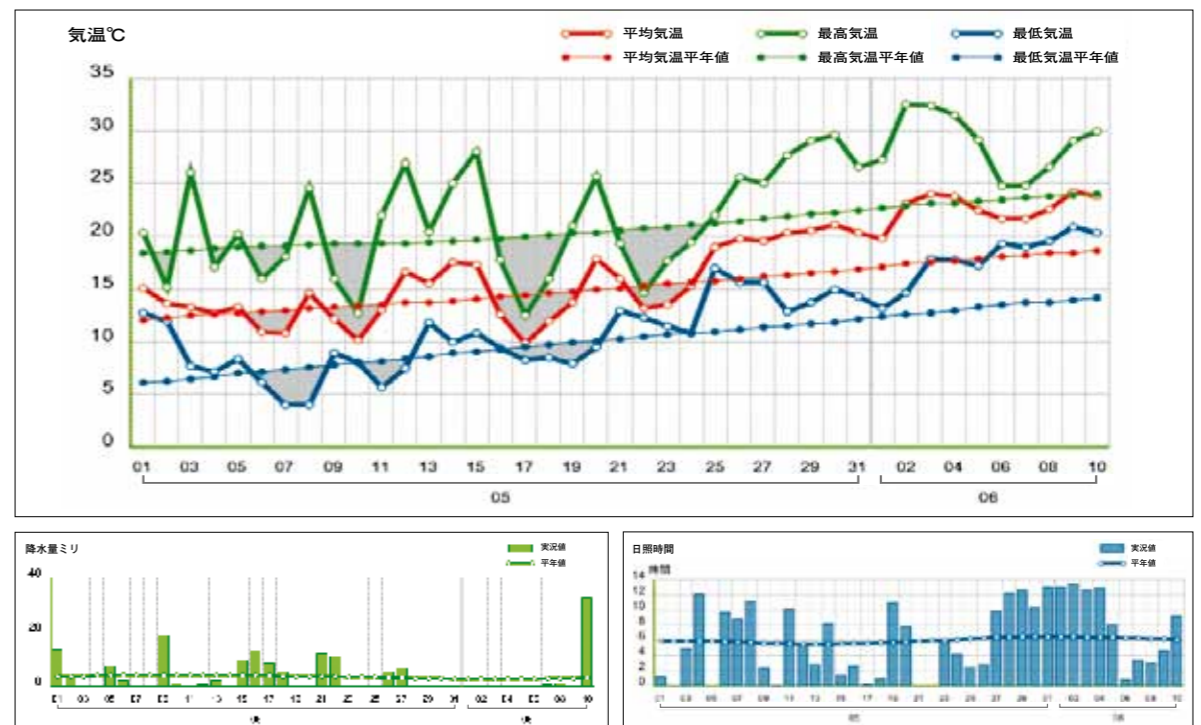
参考：本田防除と水田周辺の草刈り時期



気象変動に負けない管理を

～有効茎決定期の深水管理・中干し・追肥の3ステップで強いイネに!!～

■気象経過：5月1日～6月10日（アメダス大曲）



気象経過を見ると、4月下旬より日によって最高気温の高い日があり育苗期間中は苗焼けなどの被害が散見されました。また、寒暖の差が大きかったためハウス内の温度管理が難しく、ハウスによってはもみ枯細菌病やムレ苗などの被害も見られました。

田植始期には低温の日があり一部で活着の遅れが見られましたがその後は順調に生育しています。特に5月下旬になると気温が急激に上がり、その時期に田植えを行ったほ場では高温によるワキ（異常還元）の発生による生育不良が心配されます。

降水量、日照時間を見ると、5月下旬から降水量が少なくなっており、沢水を利用する場合は今後水不足が予想されますので漏水に注意し、安定的な生産ができるようにご協力ください。

■水稻定点調査結果（仙北地域振興局農業振興普及課より）

6月10日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈は26.1cmでやや長く（平年比106%）、茎数は192本/m²が多い（平年比134%）、葉数は平年並5.9葉（平年差+0.1葉）でした。

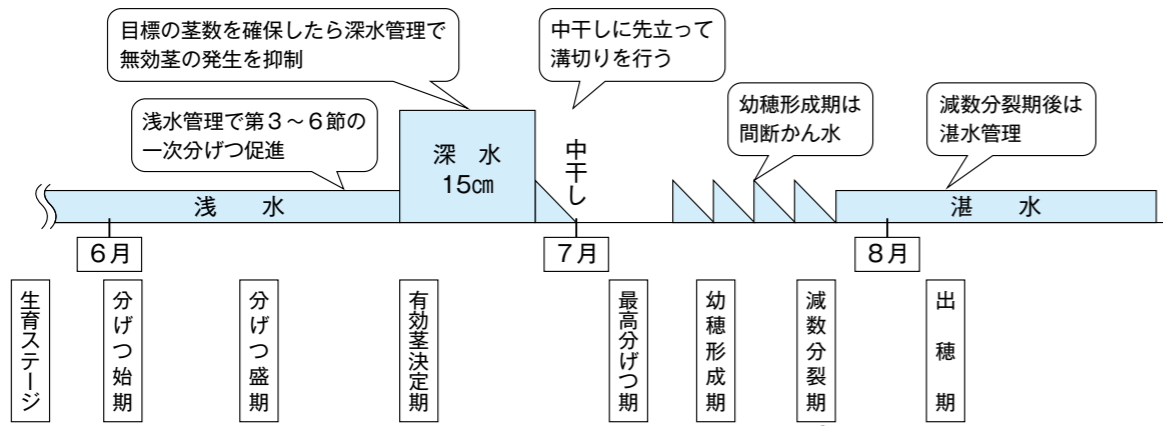
定点ほの田植え日の平均は5月21日と平年と同じになりました。5月下旬以降高温が続いており、生育は草丈、茎数とも平年よりかなり多くなっております。

■平成26年産 作業進捗状況

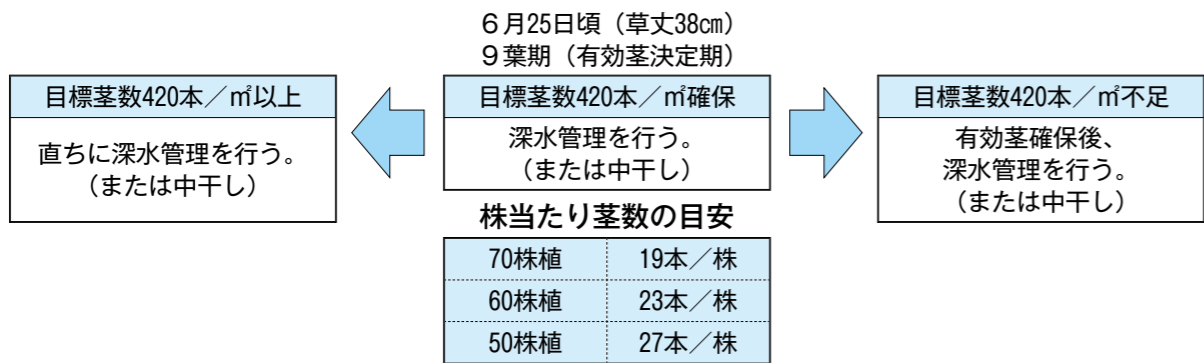
	始期 (5%)			盛期 (50%)			終期 (95%)		
	本年	平年差	前年差	本年	平年差	前年差	本年	平年差	前年差
播種	4月19日	±0日	早1日	4月26日	遅3日	早1日	4月30日	遅1日	遅1日
耕起	4月26日	早4日	早8日	5月3日	早3日	早8日	5月10日	早2日	早8日
田植	5月17日	±0日	早4日	5月24日	遅1日	早2日	5月31日	遅2日	早5日

■水管理で健康な稲を育てます～蓄積型水稻の水管理～

6月は浅水管理で有効茎となる第3～6節の一次分げつの発生を旺盛にします。早期に茎数を確保するよう努めましょう。また、今年は5月下旬からの好天により分げつの発生が旺盛になっていますので有効茎決定期（6月下旬）に、目標の茎数（下記図）を確保したら、直ちに深水管理・中干しを実施して下さい（7日～10日間）。



※1. 低温が予想される場合10cm位の深水処理 ※2. 低温が予想される場合15cm位の深水処理



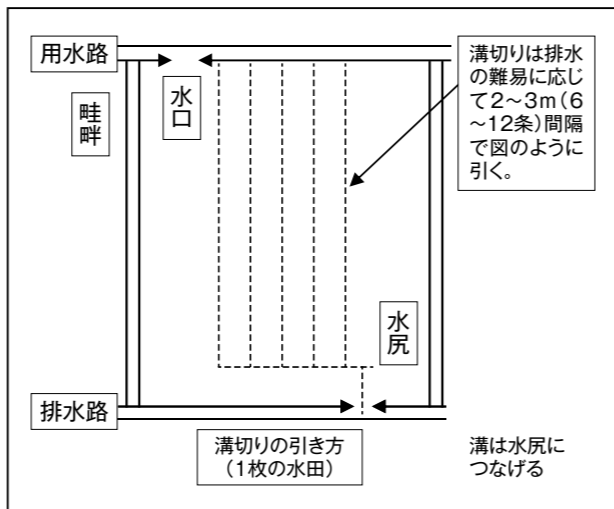
■中干しの実施

●中干しの目的と効果

- この時期に落水することにより無効分げつを抑え、茎数過多を防ぎます。葉の垂れを防ぎ、光が株内によく入るようにします。また、下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。
- 土壌中に酸素を供給し、還元状態で生成される有害成分（二価鉄、硫化水素、有機酸）を無毒化して、新たな根の伸長を促進し、後半まで活力を維持させます。
- 機械作業に適した土壌硬度を確保します。この時期に一度しっかり干すことで、収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、刈取作業がスムーズに行えます。

●中干しのポイント

- 排水不良田や田面の高低差があるほ場では溝切りは必須です。
- 中干しの実施期間は7～10日程度とし、幼穂形成期前には終了します。
- 中干しの程度は、田面に1～2cm程度の亀裂が入り足跡が付く程度とします。
※中干しを強くしすぎると亀裂が大きくなり、根が切れ、生育に影響を及ぼします。
- 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進させ、イネを健康な状態で生長させます。



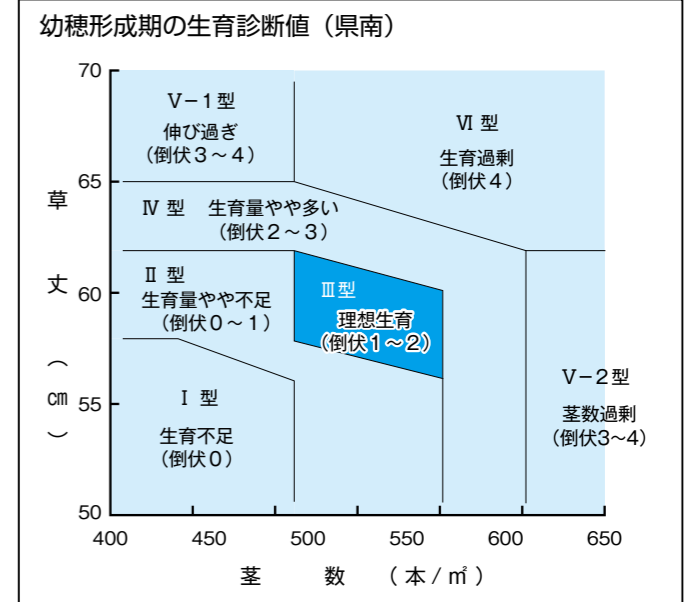
■生育状態を把握し、適切な穂肥を行います。

不安定な天候のなかでも、順調に登熟させるには、生育状況を把握し適切な穂肥を行うことが大切です。

幼穂形成期（7月15日頃）に生育・栄養診断を行い、生育状況や気象予報に応じた穂肥の判断をしましょう。

■時期別理想生育量

項目	時期	最高分げつ期		
		7月5日	7月15日	7月25日
草丈 (cm)	上限	52	65	70
	理想	45	60	65
	下限	48	55	60
茎数 (本/m²)	上限	620	580	500
	理想	580	540	480
	下限	550	500	420
葉数	上限	10.0	11.0	12.5
	理想	9.8	10.9	12.3
	下限	9.6	10.7	12.1
葉色 (SPAD値)	上限	48	42	40
	理想	46	40	38
	下限	44	38	35



○幼穂形成期（出穂25日頃）の草丈（cm）×茎数（本/m²）と幼穂伸長期間の気象予報からの診断

幼穂形成期の生育量	幼穂伸長期間の気象予報別の追肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
27,000未満	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回
27,000以上 30,000未満	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内
30,000以上 34,000未満	幼形期…なし 減分期…ムラ直し	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg
34,000以上	なし	なし	なし

※上記表は目安です。詳しくは各営農センターへご相談ください。

■追肥専用肥料

肥料名	施肥量 (kg/10a)	施用時期	備考
おばこロマンみのり	7～13kg	出穂前15日	硫安系 15-4-15 有機20%入り
おばこロマンめぐみ	(N=1.05～1.95kg)		塩安系 15-4-15 有機20%入り

■丈夫なイネづくりにもうひとつ手間

水稻はチッソ、リン酸、カリ以外にもケイ酸や苦土なども土壌から吸収しています。これらは、米の生産性や品質の向上、異常気象に強い稲づくりに繋がります。

■中間追肥

肥料名	施肥量 (kg/10a)	施用時期	備考
P K 化成 40 号 けい酸加里	20～40kg	6月下旬～ 幼穂形成期まで	①倒伏抵抗性が高まる ④登熟歩合の向上
おばこの大地			②根の活力向上 ⑤食味の向上 ③有効茎歩合の向上 ⑥病害虫被害の軽減